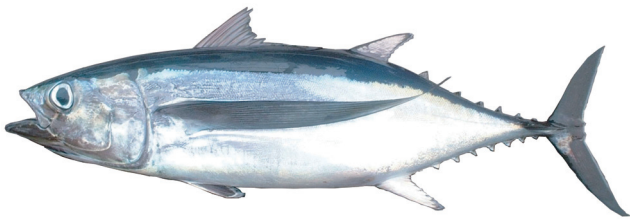


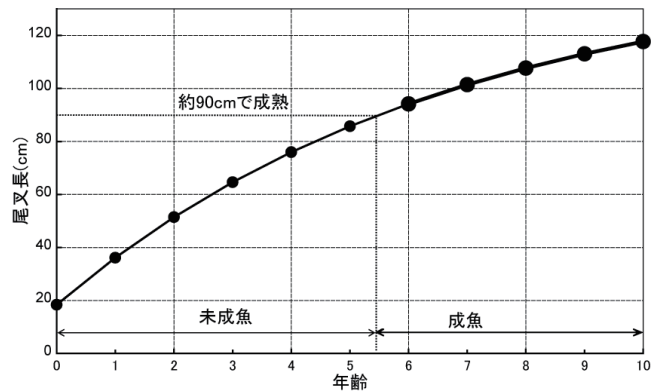
ビンナガ 北太平洋

Albacore, *Thunnus alalunga*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
 全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)
 北太平洋におけるまぐろ類及びまぐろ類似種に関する国際科学委員会 (ISC)



北太平洋ビンナガの年齢と尾叉長 (cm) の関係 (須田 1966)

最近一年間の動き

2007年1~6月の日本の竿釣り漁業のビンナガ陸揚量は前年を大幅に上回った。2007年1~3月の伊豆列島西側漁場のまぐろはえ縄漁業による釣獲率は、最近5カ年の平均値を僅かに下回った。

生物学的特性

- 寿命：16 歳以上
- 成熟開始年齢：5 歳
- 産卵期・産卵場：4~6 月が盛期、台湾・ルソン島からハワイ諸島近海 (水温 24℃以上の水域)
- 索餌場：温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

利用・用途

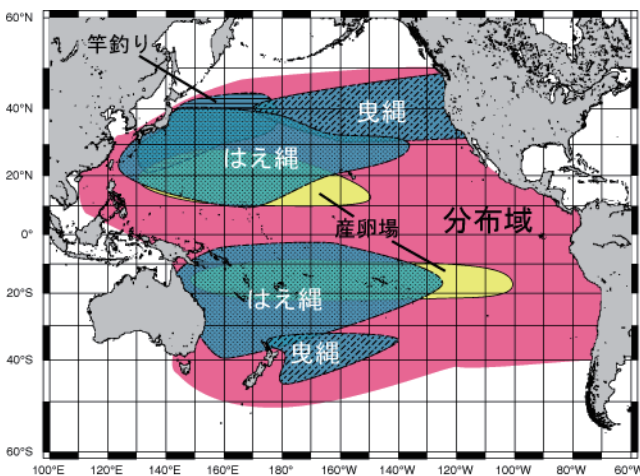
刺身や缶詰原料として利用される。

漁業の特徴

本資源は主に日本の竿釣り、米国の曳縄および日本・台湾のはえ縄で漁獲される。流し網やまき網でも漁獲されるが漁獲量は少ない。竿釣りおよび曳縄漁業は北緯 25~45 度で夏~秋に行われ、未成魚 (2~5 歳魚) を漁獲する。はえ縄漁業は北緯 25 度付近より北側では冬~春に未成魚および親魚 (6 歳魚以上) を、その南側では周年親魚のみを漁獲する。

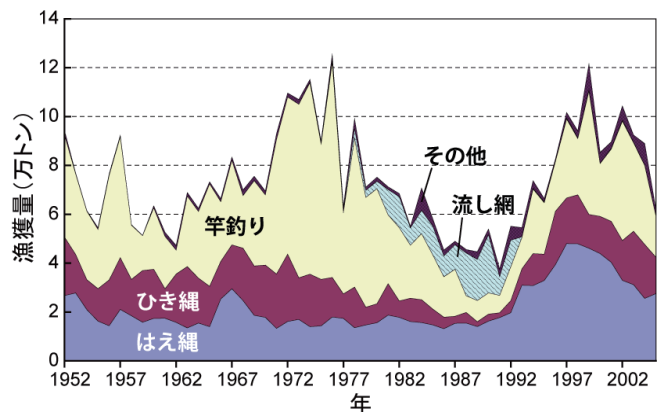
漁業資源の動向

本資源の総漁獲量は 1970 年代に最大 (12.5 万トン) となり、その後減少し、1991 年には 3.8 万トンまで減少した。しかし、その後漁獲量は著しい増加傾向を示し、1999 年には 12.1 万トンに達した。その後は 8.3 万~10.4 万トンの高いレベルで推移している。2005 年の総漁獲量は 6.2 万トンで、近年の総漁獲量は 2003 年 (9.2 万トン) 以来減少し続けている。かつては全漁獲量に占める竿釣りによる漁獲量の割合が最も大きかったが、1990 年台中頃からはえ縄の割合もかなり大きくなっている。

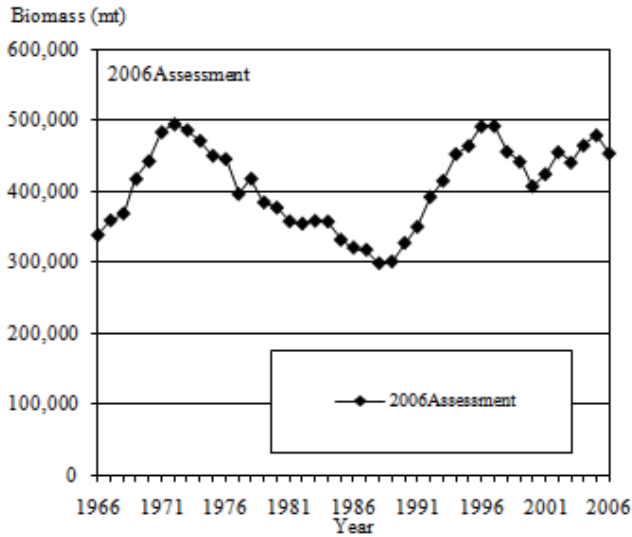


ビンナガの分布と主な漁場

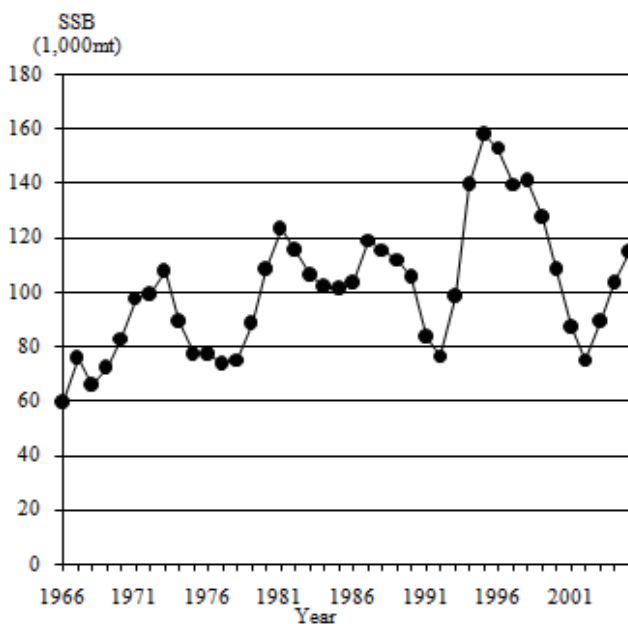
(久米 1985、西川ほか 1985、上柳 1957)



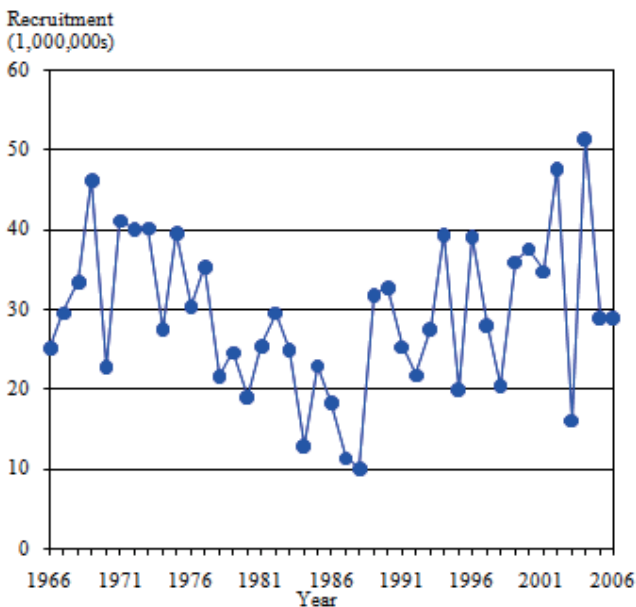
北太平洋ビンナガの漁法別漁獲量 (データは Anon. 2007a)



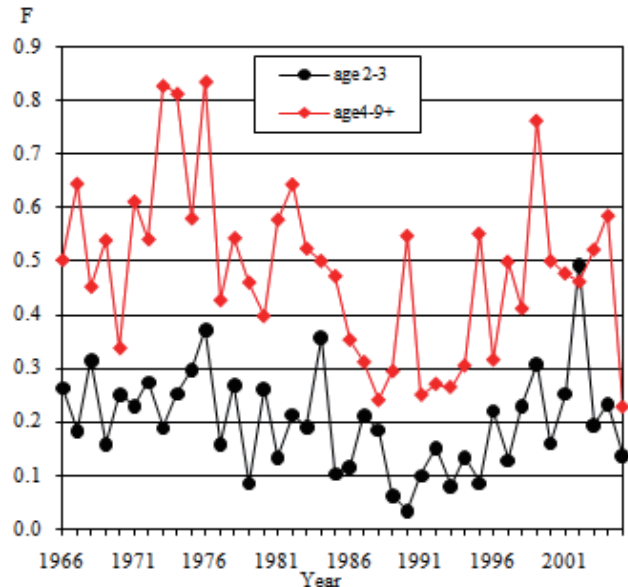
VPA で推定した総資源量 (Anon. 2006)



VPA で推定した親魚資源量 (Anon. 2006)



VPA で推定した加入量 (Anon. 2006)



VPA で推定した漁獲死亡係数 (Anon. 2006)

age2-3 は 2 歳魚および 3 歳魚の、age4-9+ はほぼ完全加入となる 4 歳魚から 9+ 歳魚の漁獲死亡係数 (漁獲量による重み付け) の平均値を示す。(VPA の性質により最近年の値は推定精度が低い)

資源状態

推定した総資源量は 2006 年初頭には 45 万トン、2005 年の親魚資源量は 11.5 万トンであった。つまり、近年の資源量水準および産卵資源量水準は、過去 41 年間に於いて比較的高い水準にあることがわかった。

管理方針

ISC は、「現在の SSB 推定値が過去 2 番目に高いが、現行の F で漁獲し続けると 2010 年代中盤まで長期的 SSB の平均値が減少するとして、現在の F を増加させない必要がある」と、2007 年に勧告した。

資源評価まとめ

■ 2006 年の資源量は 45 万トンであり、過去 31 年間で高い水準にある。

資源管理方針まとめ

■ ISC は、本資源に対する現在の F を増加させない必要があると勧告した。

ビンナガ(北太平洋)の資源の現況 (要約表)

資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	6.2~10.6 万トン 平均 : 8.3 万トン
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	3.9~7.8 万トン 平均 : 5.4 万トン